



主要化学品相場

価格は特別に指定のない限り、当たり、消費税は含まず

品目	取引条件	価格
ナフサ		
国産19.10~12月	kg当たり	41,300
国産20.1~3月	kg当たり	44,800
国産20.4~6月	kg当たり	25,000
国産20.7~9月	kg当たり	30,200
輸入20.7月	kg当たり	25,031
輸入20.8月	kg当たり	29,470
輸入20.9月	kg当たり	29,935
輸入20.10月	kg当たり	29,863

アジア市況 (円/当たり)

品目	時期、取引条件	価格
エチレン	20.6月 CFR	710~850
	20.7月 *	800~880
	20.8月 *	690~750
	20.9月 *	775~860
	20.10月 *	745~870
	直近 *	950~980
プロピレン	20.6月 CFR	730~750
	20.7月 *	760~785
	20.8月 *	830~860
	20.9月 *	870~915
	20.10月 *	875~930
	直近 *	910~960
ブタジエン	20.6月 CFR	365~375
	20.7月 *	365~515
	20.8月 *	515~605
	20.9月 *	595~805
	20.10月 *	795~1,085
	直近 *	1,295~1,315
ベンゼン	20.7月 ACP	425
	20.8月 *	440
	20.9月 *	445
	20.10月 *	425
	20.11月 *	460
LDPE	20.6月 CFR	850~890
	20.7月 *	920~980
	20.8月 *	950~1,020
	20.9月 *	1,090~1,160
	20.10月 *	1,090~1,170
	直近 *	1,210~1,350
HDPE	20.6月 CFR	800~850
	20.7月 *	890~950
	20.8月 *	900~920
	20.9月 *	930~970
	20.10月 *	930~950
	直近 *	975~1,040
PP	20.6月 CFR	860~900
	20.7月 *	900~915
	20.8月 *	900~920
	20.9月 *	930~950
	20.10月 *	930~1,000
	直近 *	1,085~1,135
PX	20.11月 ACP	不成立
PTA	CFR	440~455
VCM	CFR	840~860
SM	CFR	1,045~1,050

「OPECプラス」の会合延期

石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟国の主要産油国で構成する「OPECプラス」は1日に予定していた閣僚級会合を3日に延期した。ロイター通信が報じた。原油の協調減産を巡り、調整になお時間がかかると判断した。

サウジ原油7%高

11月積み、3カ月ぶり上昇

サウジアラビア産の
11月積みDD原油
(ドル/バレル、カッコ内)
(は前月比上昇率%)

エキストラライト	43.01(7.3)
ライト	43.21(7.0)
ミディアム	43.31(6.7)
ヘビー	43.31(6.7)

日本の石油会社が中東産油国から輸入する原油価格が3カ月ぶりに上昇した。サウジアラビア産の11月積み価格は前月から7%ほど上がった。新型コロナウイルスのワクチン開発進展による経済正常化の期待から、値決めの基準となるドバイ原油価格が上向いたのを反映した。

指標となるサウジ産の代表油種「アラビアンライト」の11月積みは、1バレル43・21ドルと10月積みに比べ2・83ドル(7%)高い。軽質の「エキストラライト」も7・3%値上がりし約43ドルとなった。

日本が長期契約に基づいて輸入する原油は直接取引(ダイレクト・デイルDD)原油と呼ばれ、ドバイ原油とオマーン原油の月間平均価格に調整金を加減し毎月改定する。

航空機燃料などの需要停滞で石油消費の回復は遅れており、アジアでのシェア維持を狙うサウジは調整金に割引を適用している。このためドバイ原油に対して輸入価格は割安な水準を保った。

ウメト インフォメーション

2020年 12月 2日 担当 小松

燃油内需96%867万kl ガソリン98%政府の喚起策もコロナで下押し 11月想定

ENEOSの見通しによると、11月の国内燃料油需要はガソリン、灯油、軽油、A重油の4油種合計で867万キロリットル、前年同月比96%と前年実績を下回る。ガソリンは政府の地域経済回復策「Go toトラベル事業」の効果で需要増が見込まれる一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響で伸び悩む。コロナ「第3波」で下振れする可能性も予想している。

ENEOS

輸送関連油種では、軽油の落ち込みが大きい。264万キロリットル、93%を見込んだ。世界的な感染再拡大が国内物流にも影響、軽油需要が減退し、前年実績を下回るとみている。

ガソリンは98%の395万キロリットルと想定。旅行などを後押しする政府の需要喚起策で販売増が見込まれるが、自動車の燃費改善やコロナ影響によるマイナス要因もあり、8万キロリットル程度減少する見込みだ。感染の拡大状況によっては減少幅が広がる可能性もある。

ウメモト インフォメーション

2020年 12月 1日 担当 小松

▶東亜道路工業／創業90周年で森下協一社長がメッセージ／変革期はチャンス
[2020年12月1日3面]



メッセージを寄せる森下社長

東亜道路工業は11月28日に創業90周年を迎え、同30日に森下協一社長が次の100周年に向けたメッセージを社員に発信した。担い手不足や脱炭素化の流れ、コロナ禍などといった社会課題を踏まえ、同社が今後進むべき方針を示した。例年開催している記念式典は新型コロナウイルスの感染拡大に配慮して自粛。30日に森下社長のメッセージを社内で共有する動画でライブ配信した。

森下社長は道路舗装業界を取り巻く状況を「日本は脱炭素社会の実現に向けて大きなかじを切ろうとしており、当社にとって重大なビジネスモデルの転換が来るかもしれない」と分析。経営課題については「業界の担い手不足も深刻で、これからの10年は順風でもなく、不確定要素が多い変革期と認めざるを得ない状況だ」と危機感を示した。

その上で「変革期はチャンス」との考えを示し、「多様化の時代、既成概念にとらわれない独自の技術、部門間や世代を超えた自由な発想こそが変革期を迎えた東亜道路グループの最大の武器になる」と強調した。